

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 12 No.4 2010年2月28日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2010 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ソニーマーケティング、720p HD に対応したビデオ会議システムのエントリーモデルを発表



PCS-XG55(ソニー資料)

ソニーマーケティング株式会社(東京都港区)は、720p HD に対応したビデオ会議システムのエントリーモデル「PCS-XG55」を3月1日から発売する。(発表は、2009年12月16日)

ソニーとしては、「PCS-XG80」(2008年11月発売)を既に販売しているが、このPCS-XG55は、XGシリーズとして2機種目になる。

PCS-XG55は、必要な性能と機能、入出力インターフェイスなどを絞ることで価格を抑え、コストパフォーマンスの高い、よりもとめやすい価格の製品として開発した。(ソニーマーケティング)

PCS-XG55は、ポイントツーポイント、あるいは、PCS-XG80で多地点接続を行う際の子機としての使用も想定されている。PCS-XG55は、多地点接続機能を内蔵しないためだ。

PCS-XG80とPCS-XG55を組み合わせた場合、以下の多地点会議が可能だ。PCS-XG80を1台とPCS-XG55の5

台を組み合わせ、合計6台による多地点会議が行える。この場合、PCS-XG80が親機となり多地点接続の機能を提供するが、他のPCS-XG55は、子機として接続する。

さらに、親機2台をカスケード接続すれば、それらの下に8台のPCS-XG55を接続することができる。つまり都合10台の多地点接続。加えて、それらの接続時には、異速度通信に対応し、ISDNあるいはIPの混在なども可能だ。

ただPCS-XG55とPCS-XG80との接続は、720pでの接続になる。PCS-XG55は、1080iをサポートしていないからだ。PCS-XG80が解像度1080iで通信する場合の接続先は、同じPCS-XG80になる。

PCS-XG80のみが、1080iの解像度に対応していることと、また、多地点接続機能をオプションで追加できるということ以外には、性能と機能、また、半透過型メニューに対応したユーザインターフェイスや操作環境なども同じだ。

しかし、本体背面にある入出力端子などの違いはある。また細かい点だが、前面パネルのデザイン色については違った色を採用している。「視覚的にわかりやすくするために、PCS-XG55の本体前面は色を変えた。」(ソニーマーケティング)

PCS-XG55の本体背面の入出力等の端子については、音声マイクやネットワークの端子数を絞っている。もちろん、会議用テーブルで使える集音範囲半径約3メートルのマイクロフォン用端子はあるが、PCS-XG80には、大会議室などに対応した80個までデジタイズチェーンできるマイク用端子が装備されている他、ネットワークポートも2つ搭載されている。

PCS-XG55は、多地点の子機としての使用以外にもマイクについては小規模会議室を想定しているためだ。PCS-XG80の方は、多地点の親機としても想定しているので、ネットワークポートが2つあることでイントラネットとインタ

ーネットを同時に接続ができる。マイク使用も大会議室までも対応できることを想定している。」(ソニーマーケティング)

次に、端末の仕様について。PCS-XG55の通信方式は、H.320、H.323、SIPに対応する。H.323、SIPについては、標準搭載だが、ISDN接続用のインターフェースユニットは、オプションで提供している。

解像度は、720p HD 60 フレーム/秒、最帯域は、最大4,096kbpsまで、また音声については、ステレオ音声にも対応する。

さらにセキュアな通信に必要な128bit AES暗号化機能や、ベストエフォートのIP回線であっても品質の高い映像と音声を送受信するための「インテリジェント QoS 機能」にも対応している。

このインテリジェント QoS は、ソニーが独自に開発した技術である、「前方誤り訂正」、「最適レート制御」、「パケット再送」を搭載し、IPビデオ会議での映像の乱れや音切れを最小化する技術だ。

その他、データ会議(H.239対応、HD映像:720p/30fps、PC画面:XGA/30fpsの同時送受信。)に必要な「データソリューション機能(オプション)」や、共有画面にペンタプレット(オプション)を使用し書き込みが可能な「ビデオアノテーション機能」、または、映像の明暗部分のコントラストを最適化する「ブライトフェイス機能」、その他、「ストリーミング機能」、「メモリーステック レコーディング機能」なども共通機能としてPCS-XG55でも搭載されている。

RFリモコンは、XGシリーズ共通。リモコンは、赤外線型とは違い、向きを気にせずに卓上においてリモコン操作が可能。

本体オプションとしては、マイク(無指向性、単一指向性)、ISDN接続用インターフェイス(3回線、6回線)、カメラ(旋回型HD 3CMOS、HD 3CCD)、データソリューション用ソフトウェア(HD データソリューションソフトウェア)、ペンタプレット(ワコム製)が提供されている。

またPCS-XGシリーズは、カメラを除いた本体コーデック部分のみの受注販売も行っている。これにより、他のカメラ

との組み合わせやシステムインテグレーションなど幅広いニーズに対応できるという。

希望小売価格は、730,000円(税別)。1年間の保守サービス付き。保守サービスには、電話サポート、オンサイト、センドバック修理、リペアサービスが含まれる。

「XGシリーズは、ソニーが今後力を入れていくHD対応のラインナップとなる。日本で先行し、4月より順次海外にも今後展開していく予定だ。」(ソニーマーケティング)

ソニーマーケティング、大規模会議まで対応するHD多地点接続サーバを発表

ソニーマーケティング株式会社(東京都港区)は、1080iと720p HDに対応した多地点接続サーバ「VCSシリーズ」を3月1日から発売する。(発表は、2009年12月16日)

「HD対応としては自社ブランドの多地点接続サーバを今回初めてラインナップに加えた。これにより、ソニービデオ会議ソリューションの強化を行い、大規模までのビデオ会議多地点環境へのニーズにオールソニー製品で対応できるようになった。」(ソニーマーケティング)

PCS-XG80内蔵の多地点機能では、2機の親機を使うことで最大10拠点までの多地点が可能だが、それに対して、VCSシリーズは、中規模から最大500拠点までの接続ニーズに対応した製品という位置づけになる。

VCSシリーズは、1Uサーバと、多地点接続、会議予約、ゲートキーパ等の機能を含んだVCSアプリケーションを組み合わせ一体化して提供する製品。

そのため、VCSアプリケーションのみでの販売は行わない。多地点接続サーバへの同時接続数に応じたライセンス方式で販売する。1台のVCSサーバ本体で、最小10ライセンスから、10ライセンス毎追加、最大500ライセンスまで提供する。

従って、システムの増設については、VCS多地点接続サーバ本体を買い換えることなく、ライセンス数を追加するだけでポート数のアップグレードが可能だ。

製品仕様について。VCSシリーズの通信プロトコルは、

H.323、映像符号化方式は、H.261、H.263、H.264 に対応する。解像度は、1080i(1画面のみ)、720p、W432p、4CIF、CIF、QCIF をサポート。1080i は、60 フィールド/秒、720p は、30 フレーム/秒が可能。画像アスペクト比は、4:3 と 16:9。HD と SD(標準解像度)混在会議や異速度接続にも対応している。一方、音声符号化方式は、G.711 と G.722 に対応。

その他、データシェアリング(H.239)による PC 画面共有も可能。

画面モードについては、「1画面表示」と「画面分割」を提供する。1080i 解像度の場合は、1画面表示のみサポート。画面分割は、4、6、8、10、13、そして16画面と、5つのパターンでの表示ができる。加えて、「拠点名表示」や「話者強調」も可能。

ただし、HD と SD 混在の多地点の場合は、最大12拠点までの画面分割となる。基本的には、接続する解像度によって対応する分割画面数は異なるからだ。

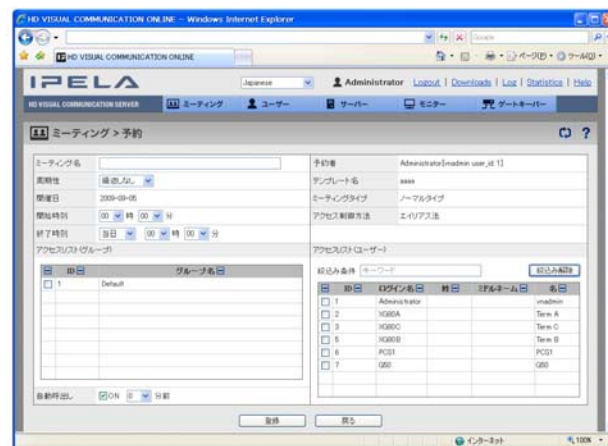
使用帯域は、単画面表示時が、最大4Mbps/拠点、分割画面表示時が、最大2Mbps/拠点となっている。

また VCS 多地点接続サーバは、H.323 ゲートキーパが標準で搭載されている。端末ごとに H.323 エイリアスと IP アドレスを組み合わせた情報を登録し、H.323 エイリアスを使用して会議に参加できる仕組みを提供する。これにより、接続拠点を電話番号や名前呼び出すことができる。

その他、「共有アドレス帳機能」を搭載。共有アドレス帳によって、端末毎にアドレス帳管理を行う必要がなくなる。「常に最新のアドレス帳を共有することができる点は便利だ。」(ソニーマーケティング)

まず、VCS 多地点接続サーバ上に会議室や端末を登録する。そして、XG シリーズ端末がサーバに接続すると、XG シリーズ端末の画面上に共有アドレス帳が表示される。ユーザはそこから相手先を選択してコールしたり、あるいは、登録した会議室に複数の端末が共有アドレス帳を用いて接続にいけば、アドホックな多地点会議を開催したりすることもできる。

ちなみに、システム管理画面で、その共有アドレス帳で設定されている一つ一つのアドレスは、表示/非表示の選択も可能。セキュリティ目的でも活用も可能だ。



会議予約画面 (ソニー資料)

一方、会議を行う際には、VCS 多地点会議サーバにブラウザ上でログインし、会議予約によって開始することができる。会議予約の設定が終わると、会議参加者に参加案内のメールが配信される時間になると、VCS サーバから会議を自動で開始させたりすることも可能だ。

さらに、毎日、毎週、毎月繰り返しなどのスケジュール設定も行える。その場合、テンプレートを予約時に作成する。一度作成すれば変更がないかぎりその設定されたスケジュールに沿って会議が自動で始まる。スケジュールが変わればテンプレートを更新する。

ビデオ会議の実施方法については、2つのモードがある。まずひとつめは、発言の可否やドキュメント共有の操作等に関して、全てのユーザが同じ権限を持つ「ノーマルミーティング」。

もうひとつは、ミーティングの議長が、発言の許可・停止、映像の表示位置の切替えの制御を行い、ドキュメント共有の操作権限を持つ「議長ミーティング」。

加えて、画面の切替え方は、音声切替え、時間切替え、手動切替え(議長切替え、ユーザ任意切替え)があり、会議の用途や仕方、好みによって使い分けることができる。

会議のセキュリティについては、H.323 エイリアス、E.164

番号、IP アドレス、または、最大接続ユーザ数によりミーティング毎にアクセス制限を設定することが可能だ。

その他、端末の「ファームウェアアップデート機能」が提供されている。(現時点では XG シリーズのみ対応)これは、VCS 多地点接続サーバに登録されている端末のファームウェアアップデートを一元的に管理、実行することができる機能。いままで一台ずつ行う必要があったが、この機能により VCS 多地点接続サーバから一括で行うことができるようになった。

サーバ本体は、1U ラックマウント型。重量は、約 17kg。448 x43 x 682mm。サーバの OS は、Red Hat Enterprise Linux を使用。その他、ネットワークの LAN ポートには、1Gbps ポート(2)、また、シリアルポート(1)、グラフィック(1)、USB ポート(5)を装備している。

VCS 多地点接続サーバの購入にあたっては、(1)VCS アプリケーション及びライセンス料、(2)サーバ本体、(3)サーバへのキッティング費、(4)サーバ本体の保守費が含まれる。

システム概算費用(参考)としては、導入費用が、同時 20 ユーザライセンスで、706 万円(税別)。サーバ本体、ソフトウェア、サーバ保守(OS 保守(3 年)、ハードウェア保守(5 年)※)を含む。※キーボード、マウス、モニターは含まれない。

また必須条件として、ソフトウェアライセンスの保守費用(年間 105 万 9 千円(税別))が必要。テレホンサポートとオンサイトサービスが提供される。

その他、SI 費、設置調整費、回線費などは別途かかる。

ソニーとしては、PCS-XG55 とこの VCS 多地点接続サーバを今回発表することで、今後もビデオ会議製品事業へのさらなる意気込みを見せる。

NTT ビズリンクと NTT アイティ、テレビ会議と Web 会議の相互接続サービスを開始

NTT ビズリンク株式会社(東京都文京区)と NTT アイティ株式会社(神奈川県横浜市)は、テレビ会議と Web 会議の相互接続サービスを 1 月 28 日より開始した。

現在、NTT ビズリンクは、テレビ会議専用の接続サービスを提供しており、一方 NTT アイティでは、「MeetingPlaza Web 会議サービス」を提供している。今回開始されたサービスは、両社のそれぞれのサービスを、ゲートウェイを通して相互に接続するサービスとなる。

テレビ会議専用端末と Web 会議システムは、一般的にそれぞれ違う通信プロトコルを使っていることが多い。今回、それぞれの異なった通信プロトコルを変換し、相互に通信が行えるようにするゲートウェイを共同で開発した。

この相互接続サービスを活用することで、テレビ会議端末と MeetingPlaza のクライアント混在の会議が行えるようになる。テレビ会議専用端末と MeetingPlaza Web 会議サービスを、社内などで混在して利用している場合などにおいて最適で、これにより、遠隔会議システムを社内などでより活用できるシーンが増え、またトータルのシステムコストダウンを図ることが可能になるという。

このサービスの利用方法は以下の通り。

ユーザは、まず NTT アイティの MeetingPlaza での Web 会議を予約する。そうすると、ゲートウェイ接続時に必要な Web 会議の会議室番号が割り当てられる。

次に、テレビ会議専用端末は、NTT ビズリンク側の MCU(多地点接続装置)へ、一方で、MeetingPlaza のクライアントは、MeetingPlaza サーバにそれぞれ接続する。

そして、Web ブラウザーでゲートウェイにアクセスし、相互接続用の会議室番号を入力して、両方の会議を接続する操作を行う。この操作は、自動接続も可能。

このような操作を経て、テレビ会議専用端末と Web 会議システムを融合した会議を行うことができる。

このサービスを利用するにあたっては、NTT ビズリンクと NTT アイティへのサービス申込を両方行う必要があるが、

ワンストップで対応するという。NTT ビズリンクでは、「テレビ会議多地点接続サービス」のオプションとして、また、NTT アイティでは、「MeetingPlaza ASP サービス」として提供する。

この契約後、両社のサービスを接続するためのゲートウェイのポートがひとつ専用提供され、任意の日時にテレビ会議と Web 会議を接続する機能を利用することができるようになる。

NTT ビズリンクの ISDN と IP に対応したテレビ会議専用接続サービスは、900 社を越える導入実績がある。また、NTT アイティの MeetingPlaza は、日本国内で 2,700 社を越える導入実績がある。

日本サムスン、RADVISION 社と共同開発した HD ビデオ会議専用端末を発表、サムスン電子としては、初のビデオ会議システムの開発、製造、販売



VC240(日本サムスン、RADVISION 資料)

日本サムスン株式会社(東京都港区)は、2010年1月より720p HD 対応ビデオ会議専用端末「VC240」の出荷を開始した。(1月26日)

VC240は、サムスン電子とRADVISION社との共同開発により製品化。サムスン電子としては、初のビデオ会議システムの開発、製造、販売になる。

日本を含むグローバル市場においてサムスンとRADVISION社が共同販売を行う。日本国内では、RADVISION Japan 株式会社(東京都台東区)が販売総代

理店となる。

日本サムスンとしては、現在販売中の電子看板(デジタルサイネージ)関連の製品に加えて、ビデオ会議システムを販売開始することで、B2B ソリューション型製品による市場への価値の提供を、より一層拡大していきたい考えがある。

VC240は、23.6型ワイド液晶ディスプレイ、HD対応カメラ、高音質ステレオスピーカー、デュアルエコーキャンセリングマイクをすべて一体内蔵したオールインワンデスクトップ型ビデオ会議専用端末。PCモニターとの兼用も可能だが、PCを起動せずにスタンドアロンのビデオ会議端末として動作する。

またRADVISION社のSCOPIA製品との統合も可能だ。VC240単体でピアツーピアのビデオ通話が行えるが、さらに、COPIAと組み合わせることで、集中管理、多地点会議、録画とストリーミング、あるいは、ファイアウォール越えでのラップトップPCとの間での多地点会議などビデオ会議を拡張させより充実させた使い方も可能になる。

RADVISION社からは既にVC240の発売に関する発表は行われている。今回の発表は、サムソン電子からの発表となる。

ブイキューブの nice to meet you セミナー、パワーポイントのアニメーション再生と小さい文字をくっきり表示する機能を追加

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)の資料同期型双方向 Web セミナーツール「nice to meet you セミナー」が、システムのアップデートを実施。これにより、Microsoft PowerPoint 資料のアニメーションの再生と、資料の拡大表示においてより鮮明に表示できるようになった。(2月4日)

今回、パワーポイントの資料変換方式に、これまでの形式であるビットマップ形式の他に、ベクター形式を追加した。これにより、資料のアニメーション再生が行えるようになったとともに、パワーポイント資料の一部を拡大表示させても、資料上の文字などがはっきりと表示できるようになった。

ただ、パワーポイントに埋め込まれている音や映像は再

生ができない。しかし、アニメーションの再生は可能で、資料上の小さい文字も読みやすくなったため、より視覚効果、学習効果の高いインパクトのある Web セミナーが提供できると同社では新しい機能のメリットを説明する。

nice to meet you セミナーは、最大 2000 拠点への配信が可能で、2010 年 2 月現在、オンディマンドセミナーコンテンツへのアクセス数が累計 280 万人、またライブセミナー(生中継セミナー)の参加者が 105 万人を突破したという。

今回アップデートを実施、それにより対応した。同社では、平均 2 ヶ月に 1 回アップデートを実施している。

日本テキサス・インスツルメンツ、新 DaVinci ビデオ・プロセッサを発表、遠隔監視、HD ビデオ会議、デジタルサイネージなどのアプリケーションに最適

日本テキサス・インスツルメンツ株式会社(東京都新宿区)は、新 DaVinci ビデオ・プロセッサ「TMS320DM6467T」を発表した。(2 月 8 日)

この DM6467T は、ネットワーク監視カメラ、HD ビデオ会議、マルチフォーマット・デジタルメディア録再機器、リアルタイム・デジタル・ビデオレコーダ(DVR)、デジタルサイネージ用アプリケーションに最適な仕様として開発されている。

1GHz シングルチップ・プロセッサで 1080p の HD 解像度 H.264 ビデオを 60 フレーム/秒でデコードすることが可能。またサード・パーティのソリューションを使うことで、最大同時 8 チャンネルの H.264 D1 サイズのリアルタイム・ビデオ・エンコードのパフォーマンスを実現するという。

DM6467T は、複数のフォーマットのデコード・エンコード、優れた圧縮技術、高度のプロセッシング解析機能を実現しながらも、システムコストを大幅に削減し、プログラム開発に対応できるオンチップ DSP によって柔軟なシステム設計を可能にしている。

さらに、高機能でスケーラブルなビデオ・プロセッサ、高速ペリフェラルなどのアーキテクチャーに特徴がある。加え

て、DM6467 と比較して DM6467T の処理能力は、37 パーセント向上していると同社のプレスリリースでは説明している。

TMS320DM6467T のサンプルは現在供給中。1,000 ユニット受注時の単価(参考価格)は、106.95 ドル。評価モジュール(EMV)である「TMDXEVM6467T」には、評価用ビデオソフトウェア(H.264 1080p 60fps デコーダ)やデモソフトウェアが含まれる。

開発者は、EVM により映像の品質やパフォーマンスの評価を行うことができ、ただちにアプリケーション開発に着手することができるという。

ボード・サポート・ライブラリには、Linux PSP(プラットフォーム・サポート・ライブラリ)、DSP/BIOS Link、オーディオ・ビデオのコーデックエンジン用フレームワークが含まれる。「DM6467T EMV」は、「DM6467 EMV」との互換性が確保されており、1,995 ドル(参考価格)にて供給されている。今後、「DM6467 EVM」とディスプレイ出力における下位互換性を確保したドーターカード「TMDXSDV6467T」を別途販売する予定。

事業動向-海外

米シスコシステムズ、テレプレゼンス向けプロトコル TIP のライセンス料をフリーに

米シスコシステムズ社は、同社の「TelePresence Interoperability Protocol(テレプレゼンス・インターオペラビリティ・プロトコル)」を著作権フリー(public domain)として開示することを発表した。(1 月 28 日)

この TIP は、マルチスクリーン テレプレゼンス システムの相互接続性を向上させるための機能を実装したプロトコル。TIP ライセンシングの概要や規定、取得方法などを説明したオーバビュードキュメントを同社ウェブサイトにて提供している。

同社は、既に、ライフサイズ・コミュニケーションズ社、タンバーク社、RADVISION 社が TIP ライセンスを取得したと発表している。

ちなみに、タンバーク社については、米シスコシステムズ

社が、タンバーク社の発行済み株式の 91.1%を取得したと、2009 年 12 月 4 日の同社発のプレスリリースにて発表している。

タンバーク社、アジア太平洋地域における販売 チャンネルパートナー強化

タンバーク社は、同社と販売パートナー間で長期的な協力関係を構築することを目的とした、パートナープログラム「enVision (エンビジョン)」を発表した。

enVision プログラムでは、以下の 4 つのパートナーカテゴリーを設ける。(1)AV スペシャリスト:会議室のデザインとインテグレーションにおける高い技術を有すること。(2)VC スペシャリスト:ビジュアルコミュニケーションおよびタンバーク製品に関する豊富な知識と経験を有すること。(3)システムインテグレータ:ネットワークインテグレーションにおいて豊富な知識と経験を有し、かつ保守体制が整っていること。(4)サービスプロバイダー:グローバルまたはリージョナルでトータルコミュニケーションおよびネットワークインフラ管理の高いサービスレベルを有すること。

これらのカテゴリーを設定することで、各パートナーの強みや市場へのフォーカスに基づいた、マーケティングやサポートなどの支援、あるいは、カスタマイズツールやトレーニングプログラムの提供などを実施する。

また、この enVision プログラムのカテゴリーの中に、プラチナ、プレミア、オーソライズドと 3 つのパートナー認定レベルも設ける。

今回の新しいプログラムの発表に加え、販売体制の強化の一環として、アジア太平洋地区チャンネル・ディベロップメント・ディレクターに、Adam Britten 氏を採用し、同社では、さらなるチャンネルパートナー開拓に取り組む。

製品・サービス動向-海外

タンバーク社、C シリーズのラインナップ拡充、 新製品発表、多様な企業ニーズに対応する

タンバーク社(日本法人:日本タンバーク株式会社)は、同社の C シリーズの製品ラインナップに新たに「TANDBERG Codec C40」を加えたことを発表した。(2 月 3 日)



TANDBERG Codec C40 背面(日本タンバーク資料) 前面のデザインは C90 や C60 と同じ。

C シリーズには、既に 2008 年以降「TANDBERG Codec C90」、「TANDBERG Codec C60」、および「TANDBERG Codec C20」が順次発売されている。今回発表の TANDBERG Codec C40 によって C シリーズは 4 機種目になる。

これらの機種は、解像度については、C シリーズとして 1080p、720p にいずれも対応しているが、HD ソース、多地点機能(MultiSite)、ビデオ出力、音声マイク出力などの点でそれぞれ違いがある。

TANDBERG Codec C40 の解像度は、最大 1080p HD に対応している他、多地点接続機能を搭載するとともに、複数のマイクロフォンと入出力端子、API(アプリケーション・プログラム・インターフェイス)などを手頃な価格で提供すると同社のプレスリリースでは説明する。

C シリーズは、あらゆる標準規格に準拠したビデオ会議やテレプレゼンスシステムに加えて、「Microsoft Office Communicator」などユニファイドコミュニケーションプラットフォームとも相互運用が可能。

C シリーズのラインナップを拡充することで、企業の多様なニーズに対応していく考えだ。

タンバーク社、シスコの TIP を TANDBERG TelePresence Server に実装、シスコ CTS 3000 との相互接続を実現

タンバーク社(日本法人:日本タンバーク株式会社)は、「TANDBERG Telepresence(タンバーク・テレプレゼンス)」と、米シスコシステムズ社の「Cisco CTS 3000」との間で、テレプレゼンスの相互運用性を実現したと発表した。(2月2日)

この相互運用性は、「TANDBERG TelePresence Server(タンバークテレプレゼンスサーバ)」に、シスコシステムズ社の TIP(TelePresence Interoperability Protocol)を統合することで実現可能となったと同社は説明する。

年内には、TANDBERG TelePresence Server のアップグレードが予定されており、Cisco CTS 3000 やその他のシスコシステムズとの相互運用が可能になる。

セミナー・展示会情報

< 国内 >

会議スタイルの改革で「今すぐ出来るコスト削減」(3月度)

日時:3月3日(水)・5日(金)(午前と午後計2回開催)
 午前の部:11:00~12:00、午後の部:13:30~14:30
 会場:三菱電機ビジネスシステム プレゼンテーションルーム(東京都中野区)
 主催:株式会社三菱電機ビジネスシステム
 詳細・申込:
http://www.melb.co.jp/p_contents/seminar/annai/annai_2010020317235899.html

Web 会議 体験型ミニセミナー

~ 導入のポイントとは? 品質実感プログラムのご案内
 日時:3月11日(木) 15:00~16:30(受付開始 14:40~)
 3月26日(金) 15:00~16:30(受付開始 14:40~)
 会場:ITX 株式会社汐留本社(東京都港区・日本テレビタワー)
 主催:ITX 株式会社
 詳細・申込:<http://www.web-kaigi.com/event/>

コスト削減、業務効率化、パンデミック対策にも有効
 早分かり! Web 会議導入の秘訣 & 事例セミナー

日時:3月9日(火) 14:30~16:45(受付開始 14:15~)
 3月25日(木) 14:30~16:45(受付開始 14:15~)
 会場:銀座「コンファレンス東京」
 主催:株式会社ブイキューブ
 メディア協力:ソフトバンク ビジネス+IT
 詳細・申込:<http://www.sbbbit.jp/eventinfo/10314/?ref=100218ev>
 * < 来場特典 > 書籍『デジタルネイティブの時代』
 (著・木下 晃伸/東洋経済新報社刊)を参加者全員にプレゼント!

< 海外 >

The WR CSP Summit - Berlin 2010

会期:4月19日
 会場:ドイツ ベルリン The Steigenberger Hotel
 主催:Wainhouse Research, LLC
 詳細:
<http://www.wainhouse.com/events.php?sec=34&opt=upcoming&event=334>

The WR Collaboration Summit - Berlin 2010

会期:4月20日-21日
 会場:ドイツ ベルリン The Steigenberger Hotel
 主催:Wainhouse Research, LLC
 詳細:
<http://www.wainhouse.com/events.php?sec=34&opt=upcoming&event=313>

The Inter-Company Telepresence and Videoconferencing Conference and Working Group

日時:4月21日-4月22日
 会場:アメリカ バージニア州レストン Hyatt Regency Reston
 主催:The Human Productivity Lab
 詳細:<http://www.telepresenceoptions.com/conference.php>

編集後記

今回もお読みいただきましてありがとうございます。
 先日2月19日は大阪でパイオニアソリューションズのセミナーで講演させていただきましたが、この定期レポートの読者の方で何人かの方にもご参加いただきました。この場にて改めて御礼申し上げます。

次回もよろしくお願ひ致します (橋本 啓介)